

上村和子 活動レポート

うえむら かずこ

こぶしの木 No.101

2025年9月18日発行



平和な未来は、共に生きる、ソーシャルインクルージョンに

さらなる人権行政の確立をめざします！

国立市議会議員 上村 和子

排外主義の台頭を止める

都議選・参議院選挙は、国民の信頼を失った自民党は大敗したものの、差別をあおる排外主義の極右政党が躍進しました。暮らしの厳しさに対する消費税減税等の政策の議論が「外国人問題」にすり替えられてしまいました。ヘイトクライム（憎悪犯罪）を誘発しかねない深刻な事態です。

この動きに抗し、差別をあおる活動は許さないと立ち上がり監視する市民、意見表明する団体、取り上げるメディアも出てきました。私たちはこの草の根の動きに連なり、戦争やジエノサイドにつながる排外主義の台頭を止め、民主主義を守り、助け合って共に生きる、平和・人権・多様性を尊重する未来へと進まなければなりません。

選挙戦で一貫して排外主義の問題を選挙戦で一貫して排外主義の問題を主張した木村英子さん

参議院選挙で、私はれいわ新選組から全国比例で立候補した重慶しよがいしやの木村英子さんを応援し、

改めて当事者運動の強さと参政権の意味を学び、排外主義に打ち勝つ選挙とはこれなどと実感しました。

24時間介助を必要とする重度しようとがいしやが、参政権・被選挙権を行使できたのは事実上今回の選挙が初めてでした。重度しようがいしやの命綱とも言える「重度訪問介護」制度による介助者（ヘルパー）派遣は、今まで選挙活動（就業や通学も）に使えたからです。

木村英子さんが国会で石破総理に質問することによって、今回から選挙活動への介助者派遣が認められました。木村英子さんはその権利を使し立候補、全国の重度しようがいしやが应え、比例の立候補者172名中29位の高得票で当選しました。

木村英子さんは選挙戦の途中から一貫して、排外主義の問題を主張。「排外思想は優生思想とつながり、重度しようがいしやの生きる権利は侵害される。過去に殺された歴史があり、決して認められない」と主張しました。

さらに、れいわ新選組は特定枠を使い、紛争地で武装解除交渉人もしくは伊勢崎賢治さんを参議院議員にしました。伊勢崎さんは早速、日米地位協定やガザの問題を取り上げ、超党派の議員連盟の立ち上げを宣言、記者会見でジェノサイド条約の批准や東アジア諸国と共に平和ビジョンをつくる等の抱負を述べています。戦争を止めるための力量と経験を持つた国会議員の出現に希望を持ちます。

外国人排斥解決から生まれたソーシャルインクルージョンの理念

今こそ、包括的差別禁止法の制定、人権機関の設立、外国籍市民の参政権を保障するしくみが必要です。

外国人排斥の危険な動きを解決するためにヨーロッパで生まれたソーシャルインクルージョンの理念を



参議院選挙で木村英子さんを応援する上村和子。船後靖彦さん、天富大輔さんとともに立川駅北口デッキで。(2025.7.19)

行政の確立を当事者参画によつてさらに進めています。

6月議会

(上村は6月12日)

国立市平和都市宣言を 未来につなげる企画

認定こども園国立富士見 台団地「風の子」の問題

上村 行政としてこれまでの

認定こども園国立富士見
台団地「風の子」の問題

6月21日の国立平和の日に、戦後80年と市平和都市宣言を未来につなぐための、宣言を市民に周知できる企画ができないか。

対話の場は8月頃を考えている。宣言を駅前に掲げたいとの意見があるが、考えていく必要がある。

フルインクルーシブ教育

9月議会 (上村は9月5日)

平和問題

神奈川県は10年前に教育委員会にインクルーシブ教育推進課ができ、積極的に取り組んでいる。海老名市教委と協定を結び、海老名市は市のフルインクルーシブ教育推進ビジョンと5か年の取組計画を公表した。市は学んだらどうか。
橋本教育部長 インクルーシブな環境をめざし、学校・学級の包摂力を高める取り組みは変わらず推進していく。また誰もがその子らしくいられる教育を進めていきたい。

私の提案により実施された、戦後80年と国立市平和都市宣言施行25周年をつなげた市長と若者の対話の場の成果は?

宣言に込められた国民の思いは25年たっても、今の若い世代にしっかりと伝わると感じた。この宣言が強く望んだ平和な世界はいまだたどり着いておらず、これからも続く取り組みが必要と感じている。

「風の子」の問題

「風の子」問題は、現在手つかず保育「風の子」として素晴らしい自主保育が続いている

が、保育士の給与の問題、保育の場所、来年度以降の見通しなど支援することが求められている。

松葉子ども家庭部長 4月以降職員有志と保護者により自主保育が行われている。保護者を中心連絡を取り合い、補助や実施場所について検討している。

二小をモデルに、未来に自然を守る環境教育と自然共生土木について話し合う対話の場を作つてほしい。

教育部長 どういう形がいいのかどうことも含めて、子どもたちと対話する機会を考えていればと思っている。

環境教育と 自然・共存土木問題

が、保育士の給与の問題、保育の場所、来年度以降の見通しなど支援することが求められている。

松葉子ども家庭部長 補助金の支給や場所の確保について調整を行つている。引き続き現在の枠組みの中で精いっぱいの検討をしていきたい。

上村 二小改築における樹木に取り扱い等について子どもたちの意見を聞くため、学校と相談をしているところ。意見については、可能な範囲で、関連事業や学校活動等に反映するよう検討したい。2学期中の実施に向け準備を進めていきたい。

フルインクルーシブ教育

上村 保護者が多様な場を選択できると言わても、問題の解決を親、とくに母親に背負わせている。子どもを主体に大人たちが共に考え共に歩む、そういう姿勢や覚悟が必要だ。当事者との建設的対話はできたのか。

松田生活環境部長 外国籍市民懇談会は2015年から、職員とのグループワーク形式で実施していたが、コロナ感染拡大により中止し、現在に至っている。今後は人権の視点等を取り入れるなど、どのような形で実施していくかを含めて検討していく。

上村 は、改めて重く受け止めなければと感じた。

教員はその都度子どもたちとも話し合いながら、工夫していくべきを含めて検討していく。

今後については、まず教育大纲に学校学級の包摂にかかる内容が示されることになるが、その上でその取り組みガイドラインを作成したい。

二小樹木保存、子どもたちの政策提案の話し合い

上村 二小樹木保存を通して出てきた子どもたちからの政策提案についての子どもたちとの話し合いは実現したか。

教育部長 二小改築における樹木に取り扱い等について子どもたちの意見を聞くため、学校と相談をしているところ。意見については、可能な範囲で、関連事業や学校活動等に反映するよう検討したい。2学期中の実施に向け準備を進めていきたい。

上村 は、改めて重く受け止めなければと感じた。

教員はその都度子どもたちとも話し合いながら、工夫していくべきを含めて検討していく。

今後については、まず教育大纲に学校学級の包摂にかかる内容が示されることになるが、その上でその取り組みガイドラインを作成したい。

大川健康福祉部長 「地域で暮らしたい」という意思を発信した時に、それをサポートできるような環境が今後さらに必要。本人の意思が形成され、意思表示され、それが実現する過程それぞれに支援が必要で、そのプロセス自体が意思決定支援。

実際に関わっている方々からも意見を聞きながら、内容や方

寄稿

わたしたちの「自治」、共育ちの場所をもう一度！

団地のあの場所で

「風の子」の保育の続きをやっていきたい

「風の子」保護者 Y

「ただ子どもを預けっぱなしにするのではなく、今、この子達に必要な環境はどのようなものかを、保育士も、その他の職員も、保護者も、地域住民も共に知恵と技術を出し合う。多数決ではなく、とことん話し合い、それぞれの意見を深く知ることで、時間はかかるけれども、少しずつ良い環境をつくりあげていく。

その過程で生まれた大人同士のつながりが、日々の子ども同士のつながりとリンクして、家族同士のつながりになれる。園庭も柵も無い、園舎の前の原っぱで、子ども達はいつも地域住民に見守られ過ごし、子ども達と一緒に過ごす親が地域住民を見守る。そんな相互作用の中で過ごす子どもたちは、地域の一員である

園長が法人により懲戒解雇され（多くの保護者・職員・卒室卒園生とその保護者・地域の方々が反対署名を提出したにも関わらず！）、法人に異議を唱える保育士と職員がス

「私たちは、もう一度団地のあの場所で、その続きをやっていきたい。」
園で勤め続けることができなくなった保育士や職員、保護者や市民ボランティアや卒

室卒園保護者で、今も風の子の保育を望む子どもたちの保育を続けながら、「続き」を描こうとしています。

「風の子の子どもが描いた絵
「おかあさんいつもありがとうございます。」

フルインクルーシブ教育 親の思い

寄稿

「教育を工夫の限りやり切る」という覚悟を

富士見台あきらめない母親

私たちの国立が目指すべき道は、出来る出来ないに関わらず、障がいのある子もない子も皆当たり前に地域の小学校に通い、ともに育ち、ともに学ぶことです。これが当たり前になった社会では、もう、集団になじまないから、障がい

があるから、などを理由に「そもそもに行けばいいのに」と考える人はいなくなります。

親は、我が子を覚悟を持つて工夫の限り育てます。

組みを超えて子どもたちに接していくだけになるとくなったりしても、皆がありますまで、安心してその人々の生活を送れるような、しなやかな社会になります。

になつたり、忘れやすくなつたり、出来ていた事が出来なくなつたりしても、皆がありますまで、安心してその人々の生活を送れるような、しなやかな社会になります。

組みを超えて子どもたちに接していくだけになるとくなつたりしても、皆ありますまで、安心してその人々の生活を送れるような、しなやかな社会になります。



母と子が一緒に手話付きで、教科書をボロボロになるまで読む家庭学習は、小学校入学後すぐに始まり、2年生の夏休みも続きました。

育てば、それは一生ものになります。これらはもう、子どもが育つ周りの環境が一緒に

ことを肌で体得していく。」これが、私たちが58年バトンを渡しながら繋いできた精神であり、自治の姿です。

NPO法人くにたち農園の会の理事達は、こうした風の運営のあり方を否定し、尊重しませんでした。

そして遂に今年4月、これまでの風の子を守り続けていた園長が法人により懲戒解雇され（多くの保護者・職員・卒室卒園生とその保護者・地域の方々が反対署名を提出したにも関わらず！）、法人に異議を唱える保育士と職員がス

「私たちは、もう一度団地のあの場所で、その続きをやっていきたい。」
園で勤め続けることができなくなった保育士や職員、保護者や市民ボランティアや卒



寄稿

排外主義は人間としての生き方を否定する!

国立市人権・平和のまちづくり審議会委員
清掃・人権交流会会長 押田五郎

この夏、排外主義を高く叫ぶ人たちが侵出してきました。ご存じの参政党です。金権まみれで将来が見通せない自民党政治に見切りをつけ、とりあえず自分たちの利益になりそうなおいしい「えさ」に引きずられた人々が、外国人やマイノリティの人々を排除する排外主義の極右思想に取り込まれた結果でした。優生思想、性的多様性排除、天皇制回帰、核武装の主張など、これまで表面的には控えられていた恐ろしい主張が今回大手を振って飛び出していました。しかもそれを大歓迎する多くの人々がいたのです。

ドイツのヒトラーも第一次世界大戦で疲弊したドイツ社会の中で、排外主義や優生思想をかざして選挙で勝ち、合法的に独裁政権を築きました。クーデターで政権をひっくり返した訳ではありません。そしてジェノサイドで殺されたのはユダヤ人だけでなく、しょうがいしゃや社会的マイノリティ、社会主義者などの異議を唱える人々でした。

夏の参議院議員選挙では、いくつもの政党が参政党の主張に引きずられるような危ないスローガンを出しました。自公の過半数割れは極右的流れと結びつい

おり、大変危険な状況だと言わざるを得ません。

こうした動きに、在日コリアンやしようと、大変危険な状況だと言わざるを得ません。
うがいしやの方々から、「自分たちは殺されるかもしれない。とても怖い。関東大震災時の虐殺が繰り返されるのか」という悲鳴があがりました。私の身近にも衝撃的な事件が起きていました。

韓国から留学している友人が、「選挙での排外主義主張を聞いて体調を崩し、食事ものどを通らず、外に出られなくなつた。日本語が語られている場にいられない」と悲痛な叫びをあげたのです。そこまでの鋭い感性に至つていなかつた私の胸に、本当にグサッと刺さりました。

差別や人権侵害を許さず、誰一人排除されることのない社会を私たちはめざしています。また自分が差別される立場にあっても、いつでも他の人を差別する加害者になるかもしれないと自戒しているつもりです。でもまだまだ足りない。

人間としての生き方を否定する風潮がまかり通る世の中にしてはいけません。もっと頑張らなければ、とこの猛暑の中で考え続けています。

上村和子・主な活動から 2025年5月～8月 ★=市議会関係

- 5月 6日加害者としての戦争を語る会、沖縄戦、林博史さんから学ぶに参加
- 15日 ★議長所信表明に参加
- 16日 ★臨時議会
- 20日 ★6月議会提案議案についての説明を受ける
- 22日 年末年始困りごと相談会実行委員会に参加
- 6月 1日 上村和子と市政を語る会**
- 5日 ★6月議会初日本会議
- 9,10,11,12日 ★一般質問(上村和子は12日)
- 16日 ★総務文教委員会出席
- 17日 ★建設環境委員会
- 18日 ★福祉保険委員会
- 25日 ★最終本会議
- 7月 13日 桜守大谷和彦さんにお話を伺う**
- 23日 二小こどもたちによる本移植された桜の養生活動見学
- 24日 ピースサイクル国立市訪問懇談に同席
- 28日 全国障害者地域支援連絡会発足会に参加
- 8月 4日 三多摩日朝友好促進議員連絡会会議参加**
- 10日 ★総務文教委員とフルインクルーシブ教育をめざす保護者との懇談会
- 12日 ★9月議会議案等の説明を受ける/人権月間実行委員会参加
- 14日 二中に車椅子昇降機設置を求める保護者と教育長・副市長等との話し合いに参加
- 17日 ★総務文教委員とフルインクルーシブ教育をめざす保護者との懇談会

21日 生き権会議 / 難病ALDのこどもを持つ親の会の方のお話を伺う
27日 教育大綱に関する保護者と市長、教育長等との対話に同席

29日 ★9月議会初日本会議

31日 「なくそう戸籍と婚外子差別・交流会」夏合宿の講師として参加

上村和子と市政を語ろう会

9月28日(日)午後2時～4時

会場:くにたち福祉社会館3階小会議室

上村から6月議会・9月議会の振り返りなどお話しし、まちの問題等について意見交換などを予定しています。

人権・平和学習会

ヘイト・レイシズムに抗うために

～人権の最前線に立ち続ける新聞記者から学ぶ～

11月1日(土)午後6時～

会場 国立商協ビルさくらホール(国立駅南口)

講師 石橋 学さん(神奈川新聞記者)

主催 石橋学さん学習会実行委員会 ☎ 090-1814-8371 上村

連上
村
絡
和
先
子

〒186-0003
国立市富士見台3-32-4 日商岩井マンション1110
☎ 090-1814-8371 fax 042-574-2646
E-mail:kazuko-kobushinoki@ezweb.ne.jp
<https://ikiru-kenri.jp/> <https://lit.link/kazukouemura>

上
村
和
子
プロフィール

1955年 長崎市生まれ／1978～82年 長崎県立高校教諭
1985年～ 国立市に居住／1991年～ 三小PTA・一中PTA・
国立高校PTAなど／滝乃川学園非常勤職員
1999年4月～ 国立市議会議員。現在7期目、総務文教委員会所属。
人権派議員として人権が守られるまちをめざし全力で務める。